

由井 進：エンサイ，特産野菜70種，野菜園芸大百科，p31-33，農文協（1989）

4. 水生作物で水質浄化

水生作物の旺盛な生育，高い根密度，野菜としての利用価値は市民のための親水公園のみならず，水質浄化に大きく貢献している。霞ヶ浦の表玄関，土浦港にある国土交通省が造った「土浦バイオパーク」はその模範例である（国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦工事事務所資料「Tsuchiura BIO-PARK」より）。その景観と平面図を図8，9に示した。縦46.5m，横78mの中に約3,400m²が作付けされ，水生野菜（クレソン，セリ，クウシンサイ）が9割余を占め，その他に花（ミゾハギ，ワスレナグサ，ルイジアナアヤメ）やハーブ（ミント），工芸材料（シマフトイ）が栽培され，収穫物は市民参加の料理教室などの素材として活用

されている。また水質浄化も順調でSS量で70%，藻類のクロロフィル量で60%，窒素やリン酸が20-40%除去され，湖水の透明度は3倍程度改善されている（国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦工事事務所資料「Tsuchiura BIO-PARK」より）。このような取り組みは宮城県迫町の長沼でも開始され高い関心を集めている。長沼ではいかだ利用のクウシンサイ栽培を平成13年度より試み，沼の浄化，観光資源としての「観光いかだ」，町の特産品としてのクウシンサイ栽培と多用である。また秋田県大潟村では八郎潟干拓地の排水中のリン酸除去を目的に，ダイズやクサネムなどの「いかだ栽培」が行われている。さらに現在，全国的には小中学校の環境教育における水質浄化，市町村の親水公園，湖沼浄化など水生植物（作物）に対する関心は高まっている。

肥料の常識・非常識（5）

越 野 正 義

肥効調節型肥料と被覆肥料

前回までTVAのHauckのことを書いたが，彼とはある時期，毎日昼食を共にした。キャッチボールをしたこともある（彼は左利きで一時マイナーリーグで投げていた）。日本にも2～3回来ており，自宅に招待したこともある。

その彼からアメリカ土壤科学会の本に緩効性窒素のことを書くので，共著者になってくれと頼まれた。本は1971年に出版されたが，章の表題は“Slow release and amended fertilizers”であった。その章では緩効性窒素肥料（slow release fertilizer）をcoated（被覆肥料）とnon-coated（非被覆肥料）に分けていた。

アメリカ土壤科学会の用語集（1996）には，controlled release fertilizerを見出しとし，その中にdelayed release, slow release, controlled availability, slow acting, metered releaseが相

互に交換できる用語として使われるとし，また緩効性とするには，コーティング，難溶性または難分解性物質を使うとある。

「肥料製造学」（1986）には，肥効を調節した肥料として，物理的制御（被覆肥料），化学的制御（緩効性窒素肥料など），および微生物的制御（硝酸化成抑制剤入り肥料）があると書いた。いずれにしても肥効調節型肥料は被覆肥料を含むが，それだけを限定していない

ところでコーティング肥料は，英語の文法を知らない人の造語で和製英語である。coated fertilizerを訳すのならコート肥料でよい。印刷用紙にもコート紙がある。公定規格を作ったとき，カタカナ語ではいかがかと議論され，それではと被覆肥料という用語を提案した記憶がある。（財 日本肥糧検定協会 参与